

昭和14年、3月24日分まで。 176 - 195コマ目

176コマ目 2006.6

昭和14年1月1日 晴 式に出る。三木君と一緒に青年寄宿舍を代表して仙台寮、秋田寮、会津寮、宮部先生などを回る。午後2人で荒井山に行く。例によって蜘蛛の子を散らした様に人間が蠢いてゐる。

/略/

1月4日 晴後曇 近衛内閣総辞職。

三木君少し捻挫す。ミッキー、スキー場でメツチェンの帽子を拾って持って行って見たら持主がなんと小学校6年生。彼氏のがっかりすること。

1月5日 朝から正午にかけて大雪。午後止む。三木君の捻挫、朝方少し痛むも強引に松竹に出かける。

後継内閣組閣の大命平沼騏一郎男爵に降る。新内閣の閣員決定。近衛文麿公、無任所大臣となるとの専らの下馬評。

1月6日、大雪後晴 午前中は間断なく吹雪く。新聞によると105糎の積雪で50年振りの大雪の由。小母さんが各室の大掃除をした。

1月7日、快晴、午後少しく降る。朝、三木と2人で荒井山、双子山、源チャン・スロープとスキー場荒しをする。2時帰舎。塚越君が帰って来た。

ニュース。チェッコ軍一中隊は国境突破、ハンガリーへ侵入。ハンガリー国境警備隊並に警官との間に肉弾戦が交えられ死者14名と発表さる。近衛無任所大臣断る。

1月8日 晴、降雪なし、夜極寒。早朝、塚越君スキーに出かける。三木君胸の打撲傷を診察して貰いに病院へ。午後駄弁る。夜7時44分列車(遅延50分)にて柳川、田村、玉山、菅沼の四君帰舎さる。

1月9日 大吹雪。夜に入りて止む。連絡船岸壁遅延のため帰舎するもの皆無。角君のみ帰る。

177コマ目 2007.6.7

1月10日。朝、河口君帰る。夜、平井・福本両君帰る。田村・三木両君スキーへ行く。

1月11日(水)夜、平山・角替両君帰舎さる。屋根にあまり雪が積り、雨漏りする所があるので工夫を頼んで下ろさせる。学部の人達は試験勉強を始めたらしい。

1月12日(木)沢山な雪である。昨日からの雪おろしもとうてい今日中には終わりそうもない。それにもかまわず時々粉雪がちらつき夕方からは本格的になった。夕食後外に出るもの2、3。夜の急行で井上君帰る。

1月13日(金)夜、渡辺君帰舎。

1月14日(土)午後、健君・角替君を残して皆スキーへ。為に円山一帯、パンノを乗り越して、ツルノになる。

1月15日(日)田原君は三段山へ、福本君は前日からパラダイスへ、山根君が砥石山へ、田村君が藻岩山へ、河口君と僕が春香山へ、三木君が山岳部のコンパで奥手稲山へ。角君、菅沼君、井上君ジルバーへ。健君、源ちゃんへ。渡辺さんも何処かへ。菅沼君、軽く捻挫。夜はスキ焼で疲労回復。依る、阿部君、予定通りに帰舎。

1月16日(月)昨日69連勝も空しく安芸海に敗れた双葉山。本日も両国に敗れた。文芸部「櫓の音」の原稿募集を始めた。学生課から週報8冊寄贈さる。

1月17日(火)夜、輸送指揮官、梅津中尉に率いられたる永田部隊、本日午後9時晴れの凱旋。今週土曜日、例年の如く舎生全部、宮部先生の所に伺いする事になった。(以上5日分日記を停滞させた事をお詫びします) - 玉山 -

1月18日(水)晴時々雪。毎日非常に寒い。舎生一同元気の様子。今日先生休講で授業はたった3時間であった。午後先生を訪問して夕方円山を通ったら、あらゆる種類の人間が滑っていた。その他別状なく至って平安也。(井上記)

178コマ目

1月19日 木曜日 雪

今日は今までになく大雪だ。たしか朝の3時頃より降り出したのだと思うが、8時頃までに既に新雪が1尺2 - 3寸降っていると言う。本日は5時限だから、お昼からはスキーの用意をして学校へ行こうと張り切って登校したが、無念! 3時限目の終りよりみぞれとなり、駄目となる。山根さんも今日スキーに行くつもりだったとか。夜7時から阿部さん学生ホールレコードコンサートに出掛ける。(MIKI)

1月20日 金曜日 晴時々雪。今日は昨日の番狂わせな天候から回復して、通常の寒さに戻った。時々思い出したように雪が落ちてくる、、、舎の内外とも静かだ。(SUMI)

1月21日、土曜日、晴れたり曇ったり。

今日は例年の様に宮部先生のお宅へ招待され、田原君は都合により欠席したるも他の写生は全部出席。先輩では鈴木、亀井、犬飼、山口等諸先生の姿が見えた。何時ものように最初に写真を見せて頂き、顔が出そろったところでカルタ、トランプ、コリント等の遊びに興じ、時の経つのも気付かぬ有様。皆、実に愉快そうだった。カルタでは相当自信のある犬飼先生も、新人井上君の出現にたじたじのてい、山口さんはいつものように話さなかったので少しさびしかった。10時20分遊びを終わって美味しいお寿司を御馳走になり帰舎。田村

1月22日 日曜日 晴

朝皆起きるのが遅かった。早い人はどこかへ行った。

179コマ

1月23日、月、薄曇、

1月24日、火、久し振りに降雪、

1月26日、木、雪。朝から粉雪、、、副舎長、平山氏も試験が終わってご機嫌が良い。

1月27日(金)1年生スキー教練。此の吹雪模様なのに少々可哀想みたい。乃木号無事盤谷着。日進〔ビルマの当て字〕親書使命を果す。芽出度き哉。

1月28日(土)今日は昨日にひかえ風邪もなく只雪がちらちらと降っているにすぎない。2年生諸氏皆スキーに出掛ける。別に此という用事もないので小生もちとお茶を飲みに出掛ける。

180コマ目

1月29日、日、角、菅沼、玉山の諸氏 トランプのせい 正午まで熟睡 便所の電燈が、、、某ゲレンデへ通う、、、君

1月30日、月、A君4時より出かけて、、

1月31日、火、1月ももう今日で終わりだ、、、

181コマ目 2007.6.9

2月1日(水)正午 青空を愉む (平)

2月2日(木)曇、寒気きびしく函館地方は吹雪で連絡船も欠航とのこと。新聞なく淋し。(新聞小説の愛読者ではないが)。夜方々の室から駄べる声きこゆ。

冬の夜をだべってくらす舎生(おのこ)かな

副舎長学校を休んで猛勉強してある。平生のあそびのたゝる試験前

2月3日(金)別に変わった事無けれど舎生風邪を引く者多し。

2月4日、晴後曇、土曜というにスキーに行く者も、活動に行く者も意外に少ない。運動部長山根君以下、明日の手稲行の用意、買出その他。舎生の約半数軽微の風邪に犯されている。今度の風邪は咳も出ず熱も出ず、何となくノ付箋で読めずノ沈の症状を呈す。明日の手稲行は対症療法のノ付箋でノ最適ならん。本朝2時、23.3 6時19 福本

2月5日、日。手稲登山。他の用事や風邪で舎に居残り、不参加の渡辺、角、玉山、阿倍、角替、平井、井上の諸君をのぞいて全舎生、朝7時の汽車で札幌を発つ。いつも寝坊の諸君も今日ばかりはと、6時に起出て、遅刻を怖れながら駅に駆けつける。軽川駅に着くとチラチラ降る雪は非常に軽く、絶好のコンディション。張り切ってヒュッテまでのぼり、それからラッセルのすぐ後をついて頂上に向かう。頂上は風一つなく非常に暖かいが雪曇りで眺望を楽しめないのが残念。下りは各自思いノの斜滑降、ボーゲン、チャニヤでヒュッテまで下り、豚汁を楽しんで、大曲のゲレンデに向う。途中、空全く

182コマ目 2007.6.9.

晴れ上がり、手稲の連山を左に見、右に石狩の太平野、前にはあくまで青い日本海を見下ろし、快哉を叫ぶ。予定より1時間早く3時半の汽車で帰る。楽しきかな、手稲登山、夜は部屋に集って、色々駄べる。

2月6日、雪。終日粉雪が降り続いた。今日は大学の記念日であり、舎生の大半は8時50分よりの式に参列。菓子と餅とをかかへて帰る。スキーには最高のコンディションなるに皆昨日の二波がぬけぬ為か僅か三木君、平井君の二人のみ荒井山へ。2、3の者は町へ、映画へ。4、5人の者が寄宿舍で静かな雪降りの1日を送った。河口

2月7日 吹雪の為に連絡船、各列車は何れも遅れる。松竹座の「アベマリア」も1日日延べとなり、為に夜外出する舎生殆どなし。夕方、渡辺さん教室のニセコ・スキー行より帰着。今日は可成り吹かれたとの事。玉山

2月8日(水)近頃又非常に寒い。天気良い方である。朝寝坊多し。吹雪のためダイヤ乱る。50年振りの雪も鉄道省にとっては大弱りであろう。

舎生、元気。夜、外出した者もある。この寒いのご苦労様だ。外に記す事見受けず。IM記。

2月9日(木)此の2、3日雪降らず。スキー行も駄目。昨日より特に寒くなった様だ。夕食前大急ぎで水彩絵を1枚かく。、、、「アベマリア」を見に行く。ダービンの演技、案外、、、。「オーケストラの少女」のダービン程フレッシュな澁刺がなかった。然し円熟してきた様に思った。

183コマ目

特に僕の印象に残ったシーンは、教会で少年がグロリヤに、少年らしい幼稚な恋をささやく所。And、、、シーン。、、、。皆さん一度ぐらいは、、、MI

2月10日(金)今朝から久し振りに雪が降り出した。スキーヤーは大喜びの事だろう。

夕食は普通よりはエトワス御馳走を出した。というのは今日は月次会で例年ならば晚餐会があるのだけれども卒業する人が今年は居ないので夕食で少し許りその気分を出そうと思つて。

7時より今学期最後の月次会。不幸にして宮部先生が御風邪のため出席されず、先輩は犬飼先生だけでしたが、写生が順々と壇に立ち、又、犬飼先生からも色々有益な話があり、実験までして我々を一寸驚かせた。理解・反復の実験とか。

犬飼先生の帰られた後、来学期の各委員選挙。結果は、

会計(10)柳川君、次点(3)渡辺操君

食事(10)河口君、(6)塚越君、次点(6)田原君

運動(9)三木君、次点(3)渡辺操君

文芸(7)田原君、次点(3)福本君

衛生(8)菅沼君、次点(5)平井君

云い遅れたが、今日の委員は山根、三木の両君。 MS記す

184コマ目

2月11日。今日は紀元節の佳き日。9時より式があったとか。昨夜すこし遅くまで起きて居たため不本意の朝寝坊。山根、河口、阿部の3君春香山へ登山。夕方、無事帰舎。夜は公会堂に音楽会あり、井上君のピアノ演奏、好評とのこと。

2月12日(日曜日)朝、皆スキーに行った様だ。残っている者少い。雲があるが、日が当たってよい日だった。海南島に我が海軍が上陸した、と新聞は報じている。

源氏物語を買うことになった(文芸部)。屋上の雪も落とし終わった。角替

2月16日、木曜日、曇り時々雪。

夕方学校から帰ってみると舎の日誌が机の上においてあった。早速開くと何と13日から15日迄「ブランク」である。日誌は矢張り、その日の事をその日に記すことが原則と思われるので、この「ブランク」を埋める事は止めにした。

この頃はかなり気温も上昇し、同じ雪が降っても、大分湿ったそれである。1ヶ月後のことを考えると、何となく愉快の気分も湧いてくるが、その前に通るべき関門のことに思いを致すと、いささか、ユーウツとならざるを得ない次第である。 - 操 -

2月17日、金、曇。試験も旬日の後に迫った。今度は予科・実科・学部共、時が同じである為、もう大分、試験色が濃くなり、スタートコンパを未だしないのは僕位だ。早く僕もしないと落ちるかも知らん。平山副舎長、明日試験とか、頭に何も入らないとかいって散歩に出たが、すぐに帰ったらしい。

お互いに、出来るだけ勉強しよう。余裕を作って裕々としているのも一法だが、ベスト

185コマ目

を尽すのも一法だと思う。気温も8分上がって、雪もだん／＼と解け始めた。あの冬の真盛りに比べると大変過ぎしよくなった。再び寒波がおしよせないと良いが。(塚越)

2月18日(土)一昨日、昨日と比べるとかなり寒いが、それでも窓辺には雨だれの音が楽しくひゞく。もう春かしらん。愈々懐かしき我が家に帰る日が迫ったが、其の前の試験に失敗するとあかんから、今からスタートコムパ。 A B E

2月19日(日)僕と福本君、馬の練習に行った。他の舎生は draw で忙しそう。夕方より雪降る。

2月20日。昨日よりT君、精神状態興奮して、全然とりとめのない事をやり、全く常人とは思われない様になってしまった。彼の様な善良の人はかく迄苦しめるのはあまりにも天は無情すぎる。精神的に文化の犠牲の一人である。20世紀文明の罪か、社会制度の悪か。夜、前川先生、T君の事で来舎さる。

本日、決算あり。1日の食費49銭也。春は窓の外に迄やってきた様な気がする。もう雪の、、、。角替君の1日も早く快復されん事を祈りてこの日記をかく。(柳川)

186コマ目

2月21日、今日午前10時、T君は入院された。神経衰弱らしい。日頃あれ程おだやかな小心な、理性の鋭い彼も遂に文化いや文明におかされ、殆ど常人と思えないまでになってしまった。我々は普通、理性は相当強いものだと思っていた。然し彼T君の発病を考えると、、、<中略>彼のお父さんもすぐ来ることになっている。

<以下5行略>

22日、快晴、、、。T君面会禁止。父君明日来る予定。

23日、午後、T君の父君、来舎。

24日、毎日の晴天に。山根君9度近くの熱に

25日(土)曇。陸軍機、再び蘭州空襲、50数機撃破。舎に風邪が流行。

26日、昨夜少し雪が降った、、、。山根君まだ起きられず

187コマ目

2月27日、月曜。夕刻よりヒドイ吹雪、、、。夜9時13分の汽車でT君帰郷さる。一日も早い君の回復の日をお待ちします。

2月28日、火曜。、晴れた麗らかな、。昨日から毎時間の様に終講の辞がある。化学の佐藤さんを皮切りに、今日は山鳥さんとポーリンさんとがやった。

思えば早きもの、遂に予科を卒えんとしているのを見れば。(角)

3月1日、晴、気温低し。愈々3月に入った。内地なら梅の花も満開だろうに、北国とは云え余りの相違。試験も近くなって気がすさぶと、ばいえんに汚れた雪を見ても憎らしくなる。日を早めて行った会計の支払、7時半に終る。今日は何となく静かだ。時計の経つのも早い。田村

188コマ目

3月2日(木)戦前、不気味な静けさの連続だ。、、、。10時頃になるとスタート・コンパに行くもの多し。かくて戦勝をこい願う。若き戦士に幸あれ。(塚越)

3月3日(金)愈々明日から予科の試験が始まる。内親王様御誕生の号外が出ている。

3月4日(土)曇、小雪。予科は今日から試験か、、、私の方も6日から16日までとびとびに学年末の試験が始まる。(渡辺操)

5日(日)日曜日にもかかわらず予科は今日試験があった、、2日終わってしまった。余すところあと2日だ。大いに頑張っしてほしい、(塚越)

6日(月)、勉強がいやになったので新聞を読む、、相棒が入ってくる、、、ふとんにもぐりこんでしまう。

外は月が綺麗。煤煙で汚れた雪が別人の様な顔をしてすましかえっていた、、、ABE

189コマ目

3月7日(火)小雪。夕食後、Tさんからのミカンをごちそうになる。とても甘い。食

堂にお父様からの御手紙がはられてある。御心配のことでしょう。僕等も健康に十分気をつけよう。ヒュッテ券を買いに行った者がある。この小雪では少し心細い。試験もあと2日。最後の花を飾ろう。各自心の中に春休みの希望を抱いて。Sumi.

3月8日(水) 、、、。来学期の室割当あり。2号室...柳川、3号室...三木、4号室...河口、5号室...阿部、6号室...山根、7号室...玉山・井上、8号室...平井・菅沼、9号室...福本、10号室...渡辺健、11号室...渡辺・塚越、12号室...田村。

190 コマ目

3月9日 春を呼ぶ雨がしとしと、、、
予科生諸君本日で試験終了して風呂に行く者、ねる者、個担を訪ねる者、Drawをする者と、思い思いの事をしている。予科3ヶ年間我々と共に朝夕暮してきた角君、田原君が愈々退舎される事になった。三ヶ年の魂の生活を寄宿舍にて送った両君の胸には一生の楽しき思い出として我が青年寄宿舍の・舎生の姿が浮かぶ事であろう。さもあらばあれ、送る人、去る人、共に感慨無量なるものがある。夜7時より「坊ちゃん」にて両君主催の離別コンパあり。

3月10日。、、、。昨夜僕と角君はさゝやかな離別コンパを、、、催した、、、感謝の言葉は、、、月並みの言葉しか言えなかった。予科3年間の年月、、理性と知性と情操の陶冶、、、の名残は僅に、追憶に生きる私の性格に見えるであろう。私はこの私の性格をいつまでも

191 コマ目

保ちたい、、、会の席上誰かが僕を「性格のある人」と云った。確かにそうである。標準をはずれた実に奇妙な性格は今迄僕から離れなかった。理性がそれをふり切り感情がそれを嫌悪しても、この性格をどうする事も出来なかった。「性格の有る人」は、この様な性格を常に、自己批判の材料に、、、入れた。内省的な苦しさは、、、精神的な寂しさを伴うものだ。、、、幌都の空、数千の星は私の心をこよなくさめた、、、薄別の旅行には友と共に若き日の感激に高歌放吟したヒロイックな気持ちは、私の舎生活を通じて大きな意味を持つ様に思われる。英雄的な感情、それは澁刺とした青年の、とらわれない性格に基いて居る。それは不正を憎む、見栄を排す、あらゆる社会的無用な規範を乗り越えて純粹とした道徳を確立する、自己の正義感に立脚した道徳観を樹立する (読めず - 編者) 或いは孤高と思われ、又、円滑性を欠く恨みはあるが、何人にも犯されない不拔の自信に心中の喜悦を感じず。私は其れをしっかりと抱いて離さなかった時代もあった。そしてそれも過ぎた。運動部や文芸部をやって、中学の時代の下宿では味わえなかったおもしろい経験を、、、沢山に持った。対和歌山寮との試合に負けた時はがっかりした。続いて復讐なつて3連続してまんまと勝った時には人類特有の優越感をさらけ出して鼻をうごめかしたものだ。、、、。其の他ピンポンにては舎中並ぶものなしと張切って居たが、ピンポン大会がなくなったので、大変消耗しました。庭球なんか、、、<略>、、、。

192 コマ目

2年の終り頃、はじめて音楽の才能を発見し、資源開発の線に沿って開発し始めたその初期には全く奇妙な音を立て、これがためコンデ〔試験の不可の成績〕の増えた方にはまこととすまんです。然し現在では、、<略>、、、いさゝか駄文にそれ、それのみか自己の自慢をすることは実にけしからんと自分でも思っております。駄文は文芸部時代の所産であった、駄作は予科3年間の原稿であり、蛇足は我と我が身の行為と思う。(田原)

3月11日(日)昨日今日と春らしい、、、早朝、河口、三木、菅沼の3君帰省。途中、ニセコでスキーの猛練とか。ついで福本、平井の両君、旭川へ馬術部の合宿に。渡辺健君、午後4時の急行で帰省。残るもの本科マンのみ。

今晚の食事を最後として、田原君と僕とは退舎し、同時に帰省す。思えば今まで、丁度3年前、札幌の駅前で玉山君に会い、連れられて、寄宿舍の玄関に入ったのでした。爾来3年、短いような且又長い様な予科時代でした。様々な事が走馬燈の如く頭の中に去来する。薄別旅行の事、記念祭の事殊に余興をやった事など中々尽きそうにもない。何故か食事部を3年もやらされ、何時も同じような、唯、順列、組合わせの変更のみでやって、甚だ申し訳ない次第。でも自分には、何よりも良き経験となった。予科を終わるに当たって、予科の本質をつかみ得ただろうか。真に精神的な糧を獲得したかどうかと考えて来ると恥ずかしい。計画だけは立てた。然し実行出来ないものばかり、何と云うならし無さだろう。一昨日の夜の別れのコンパに多数出席下さって全く有り難うございました。その皆さんが一々、送別の辞などして下さって、何ともお礼の申し様もありません。

193 コマ目

実に、あの会を開いて良かった、とつく／＼思うのです。田原君も同じ心だと思います。そして、今より以後、数年間にして出るのを別にして、今までと少しも変わらず、いやそれ以上に御交際、御鞭撻をお願いして止みません。今この日誌を、最後の日誌を書きつゝ思い浮かぶまゝに書いていると、愈々、遂に何とも云われず、名残惜しくて仕方ありません。三ヶ年も皆さんと同じ屋根の下で同じかまの飯を食べていたのですもの、無理ないとは言いながら。

舎生諸兄には色々と殊に学部の方々、同室にて机の並べた方々には、何から何まで御世話になり、その幾分の一も返さずに終わる事は甚だ済みません。

住めば都であらゆる方面で居心地の良いこの寄宿舍を出るに至ったのは、お別れの会の席上で言った様に、学生生活の新段階に入るに際し、惰性より脱出のため、平たくいうと気分一新、自己の再反省のため、この手段をとったのです。この事をくどく書けばあまり言い訳的になり気持ちよくないと思いますので、もう止めますが、最後に皆さんとのお別れに際して、別離の辞として、ゲーテ『ファウスト』の最後の幕にある詩一節を掲げます。

「人間よ、立ち上がれ。そして周囲を見回わせ。

有能の士には世界は黙ってはいないのだ。

何故、永遠のものに向って漂う必要があるか。

その認識するものは、つかまれるのだ。

この地上の日に沿うて渡って行け。

たとえ幽霊が化けて出ようとも自分の道を進め。

そのときに苦しみと幸福を発見するだろう。

あらゆる瞬間に満足しない人には。」(角 記)

3月12日(日)昨日午後、渡辺健さん帰省。田原・角両君は舎での最後の夕食の後に下宿へ移られた。本日午前、両君共に御帰省との事。舎に残留するのは

194 コマ目

学部4名と山根君のみになる。山根君は福本、平井両君と馬術合宿参加の筈であったがコンディション不良の為に参加を中止した由。本日舎の玄関前のエルムの大木の上の方が折

れた。昨夜来の雨と湿雪のためらしい。1日中小雨が、、、
工学部の試験は明13日で全部終る。

3月13日。朝から相当な雪なので、又冬が舞い戻った様だ。、、、。夜は明日東京に発つ山根君の離別コンパ。山根君の消耗した顔がなおった。

3月14日。快晴。麗かな春の光が、、、

3月16日 曇り後晴。玉山君スキーに。私の方の試験もやっと終った。

3月18日、曇り、時々降雪。、、朝からとても寒い。、、、柳川君、朝の急行で帰るのを見送り。日本銀行支店へ大学の地代を支払いに行く。平井君は昼過ぎ小樽へ発つ。僕は、7時頃、火災保険金の支払いをすます。

195コマ目

3月19日、曇時々晴。玉山君午前9時50分の急行で東京へ。

3月20日、曇。田村君帰省。福本君、乗馬合宿より帰舎。舎内は火の消えたように寂しい。私も早く家へ帰りたくなって来た。

3月21日、快晴。今日はお彼岸の中日である。内地の今頃を想像してみる。

3月22日、晴後雪。午前は、、、好い天気、午後から雪、、。夕方は、、。福本君、本日、東京に向けて出発。舎には私一人。

3月23日、雪のち晴。夜、風吹く。

3月24日、雪後晴。温度上昇。融雪甚し。 / 日誌記事完 /